

関西とアジアの絆を紡ぐ アジア太平洋研究所(APIR)

一般財団法人アジア太平洋研究所は、アジア太平洋地域の持続的な発展をサポートすることを目的に、関西経済界を中心とする支援体制のもと、2011年12月に設立された。約1年の活動期間を経て、2013年4月、いよいよゆめきた・ナレッジキャピタルに移転する。関西・日本の新しいゲートウェイ、そして「関西イノベーション国際戦略総合特区」の中核機能を担うゆめきた。これ以上ない活動の場を得て、関西・日本とアジア太平洋地域のwin-win関係の構築をめざす。

APIRとは

■関西の知的インフラを継承して ミッション達成に挑む

ゆめきた再開発プロジェクトの一環として設立構想が浮上し、産学官により設立準備が進められてきた任意団体アジア太平洋研究所(APII)と、関西経済界のシンクタンクとして長い活動の歴史を持つ財団法人関西社会経済研究所(KISER)が機能統合し、2011年12月1日、一般財団法人アジア太平洋研究所(APIR)が誕生した。

APIRは、KISERが蓄積してきた日本の経済社会や関西地域経済に関する調査研究活動の実績および産学官の研究交流ネットワークという「知的インフラ」と、APII構想が標榜してきたアジア太平洋地域の諸課題解決という「理念」を継承し、国・地域の枠を越えた知と情報の交流基盤として、関西・日本

およびアジア太平洋地域の新たな活力創出、持続的な発展に寄与することをめざしている。

■中立的・公益的・ネットワーク型のシンクタンク

APIRは関西をはじめ国内主要企業180社余りを会員企業とし、評議員・役員には、会員企業役員や主要経済団体トップに加えて京都大学・大阪大学・神戸大学の経済学研究科長が就任。政府や特定の企業グループの影響を受けにくい特性を生かして中立性・公益性を担保しながら研究活動を推進している。また、国内外の研究機関とのネットワーク構築にも取り組んでいく。

■機動的な研究推進体制と評価体制

研究にあたっては、テーマごとに大学教授などをリサーチリーダーとする研究グループを組織、外部研究者を起用することで幅広いテーマ選択と機動的な研究推進が可能となる体制を構築している。現在常勤研究員は4名在籍しており(うち1名

は中国人研究員)、研究者の育成にも力を注いでいる。

また、所長を委員長とし、学界有識者や会員企業スタッフ等で構成する研究推進委員会を諮問機関として設置。企業ニーズにも適応した研究テーマの選定から評価まで行い、研究成果の有用性向上をはかっている。

2012年度の研究・事業活動

■13の研究テーマ

2012年度は3つの研究分野で13の調査研究を実施している(表)。その研究成果は今後順次公表していく。

そのほか、関経連をはじめとする関西経済界からの受託研究にも取り組み、経済界による提言のバックボーンを支えている。

■積極的なアウトリーチ活動

週次・月次・四半期の経済予測のほか、トピックスや経済動向を分析したレポートを随時発表してい

〈表 APIR 2012年度の研究活動～3つの研究分野と13の研究テーマ〉

①アジア太平洋経済展望

- ・関西企業とアジアの経済統合
- ・日米アセアン経済の超短期経済予測
- ・中小企業の東南アジア進出に関する実践的研究
- ・環太平洋経済協力をめぐる日・米・中の役割
- ・日本企業立地先としての東アジア

②イノベーション

- ・関西地域と広義の環境技術
- ・日本の金融機関の構造変化とアジア経済
- ・関西における観光イノベーションモデルの構築
- ・東南アジアにおける発電・送電事情と将来計画

③地域発展戦略

- ・関西広域経済圏における災害の経済分析
- ・産業活力を強化するための空間構造戦略
- ・関西地域の投資戦略
- ・関西経済予測と関西経済構造分析

る。その情報はホームページに掲載、だれでも閲覧することができる。

＜現在掲載中のもの＞

- ・日本経済／米国経済予測
- ・関西エコノミックインサイト
- ・APIR Commentary
- ・APIR Trend Watch
- ・分析レポート
- ・ディスカッション・ペーパー

そのほか、会員企業や一般を対象としたシンポジウム等を随時開催している。

■2012年度の活動のハイライト

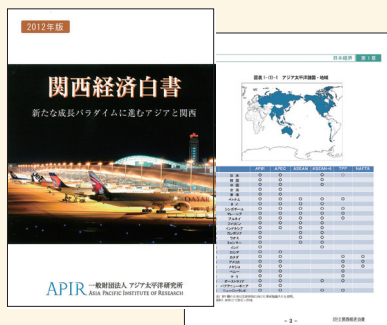
＜設立記念シンポジウム開催＞

5月14日に設立記念シンポジウムを開催。パネルディスカッション「アジア太平洋時代における日本の役割—アジア太平洋研究所に期待するもの—」では前日本銀行総裁の福井俊彦氏、大谷大学の鷺田清一教授、京都大学の中西寛教授、シンクタンク・ソフィアバンクの藤沢久美副代表を迎え、さまざまな提言をいただいた。



＜『2012年版 関西経済白書』刊行＞

K I S E R時代から関西経済を知るための必読書として定評のある『関西経済白書』を、「新たな成長パ



ラダタイムに進むアジアと関西」をテーマに編集、9月に刊行した。また、初の英語版を3月に刊行する。

＜注目を集めたレポート＞

随時発表するレポートの中では、「一票の価値」や「節電行動」に関するものが注目を集め、新聞各紙にも取り上げられた。トピックスや経済動向を、客観的データをもとに機動的に分析できるAPIRの強みが、社会の要請を先取りした好例である。

2013年度からのAPIR

■アジア太平洋経済と関西経済の緊密な連携をめざす

内外の政治・経済環境が不透明さを増し、関西企業がその規模の大小にかかわらず海外市場に新天地を求める動きを強めるなか、関西圏域における成長戦略・雇用創出も重要な課題となっている。そこで当研究所は当面、アジア太平洋経済と関西経済の緊密な連携をめざし、

①アジア太平洋経済展望、②関西発展戦略とイノベーションの2つを、研究分野の柱として研究活動を推進していく。

また、研究プロセスを活用した人材育成、うめきた移転という「地の利」を生かした研究成果の普及活動にも取り組む。さらに、APIRのネットワークを生かした講師陣による連続セミナー等の新企画や、国際交流推進の端緒として東アジア・ASEAN経済研究センター (ERIA)との研究交流を予定している。

■うめきた移転で関西発展の一翼を担う

2013年4月、APIRはうめきた・ナレッジキャピタルに移転する。うめきたの開発は関西経済界の最重要プロジェクトである。APIRも関西発展の一翼を担う存在であるという気概をあらためて持ち、研究・事業活動に取り組んでいく。関係各位の一層のご支援をお願いしたい。(APIR 真鍋綾／企画広報部 荻田弥生)

APIR

一般財団法人 アジア太平洋研究所
ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長：井上礼之 ダイキン工業会長兼CEO

代表理事：岩城吉信

理事・所長：宮原秀夫 情報通信研究機構理事長

副所長：澤 昭裕 21世紀政策研究所研究主幹

研究統括：稲田義久 甲南大学教授

林 敏彦 同志社大学教授、大阪大学名誉教授

所長補佐：山口 英 奈良先端科学技術大学院大学教授

アドバイザー：猪木武徳 青山学院大学大学院特任教授

鷺田清一 大谷大学教授、前大阪大学総長

所在地：〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号
中之島センタービル29階

※2013年4月、うめきた・ナレッジキャピタルへ移転予定。

ホームページ：<http://www.apir.or.jp>

連絡先：TEL：06-6441-5750 FAX：06-6441-5760

E-MAIL：contact@apir.or.jp

☆メルマガ「APIR」配信登録は上記ホームページよりどうぞ!